

平成25年6月
尼崎市（兵庫県）

全体総括

計画期間：平成20年7月～平成25年3月（4年8月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、「～人・もの・情報が集い、にぎわいと活力あふれるまち～」を目指して各事業に取り組んできた。地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成の指標である休日の歩行者通行量は減少傾向ではあるが、阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業の完了に伴う居住人口の増加への期待、平成21年3月に阪神なんば線が開通し、阪神尼崎駅の乗降客数が大きく増加しているなど、今後、中心市街地の活性化に寄与する要因はある。

また、最近の動向としては、空き店舗を活用したフリースペースが設置され、飲食店未経験者による期間限定のバーの開店、全国の怪獣愛好家が集い、語り合う怪獣酒場の定期的な開催など、様々な取り組みを継続的に実施し、市内外からの集客を図っているところであり、新たな出店の呼び水となりつつある。

併せて、地元商業者をはじめ、地域住民、警察、行政が連携し、はみ出し陳列、ごみのポイ捨て、不法駐輪などの根絶を訴えるパレードの実施や、中央商店街アーケードのリニューアル等により、健全で魅力ある商業空間が形成されている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した

【活性化状況】

若干の活性化が図られた

基本計画の主要事業は、ほぼ計画どおりに実施されており、掲載する63事業のうち、16事業が完了、44事業が実施中であることから、概ね順調に進捗・完了したと言える。

また、住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業し、消費者の流出が懸念される中、各目標の掲げた目標値を達成することができなかったが、商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成や「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成の目標指標とした数値については基準値を上回っており、全体としては、計画した事業が概ね順調に進捗・完了したことから、若干の活性化が図られた。

3. 活性化が図られた要因(尼崎市としての見解)

活性化については、行政だけで進めることは困難であるが、地元企業や商工団体、商業者など様々な主体の多様な人々が参加、協力することにより、活性化の機運を高められたことによって、より市民に近い目線での意見が集められた中で、事業を実施してきたことが、近年の住民の趣向の多様化や近隣都市における大型商業施設の開業があった中で、若干ではあるが活性化が図られた。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組を振り返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

中心市街地を取り巻く環境としては、阪神尼崎駅や同駅南側での住宅の整備、及び阪神なんば線の開通による人口(交流人口含む)増加がみられたものの、近年、隣接都市(西宮市、大阪市)における、相次ぐ超大型商業施設の開業の影響もあり、平日の賑わいは以前と遜色ないと思われるが、休日の歩行者通行量については一貫した減少がみられた。

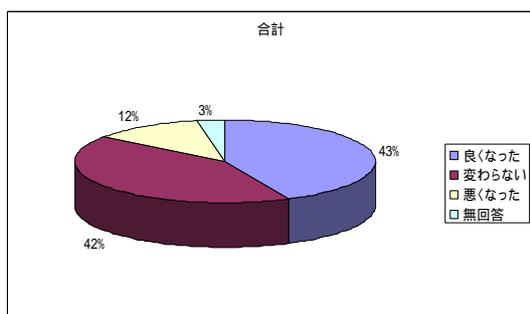
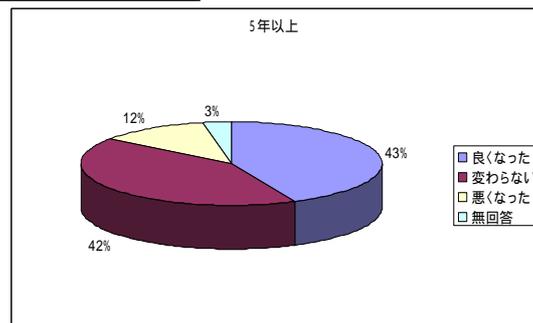
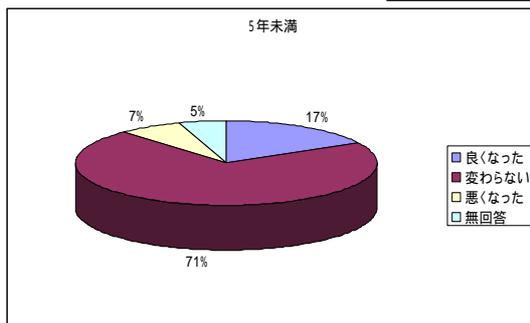
そういったことから、当基本計画掲載事業については、概ね順調に実施されたものの、当地区の活性化が十分に図られたとは言い切れないと考えている。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

若干の活性化は図られた

中心市街地の状況がどのように変化しているのか、来街者、居住者等134人に対してアンケート調査を実施した。(来街、居住期間5年未満 42人、5年以上 92人)

中心市街地に対するイメージ調査



全体として、約9割の人が、「良くなった」、「変わらない」と感じている。

アンケート調査の結果から、来街、居住期間が5年未満の人については、約2割が街の印象が良くなったと答え、約7割が以前と変わらないと回答した。また、来街、居住期間が5年以上の人については、約4割が街の印象が良くなったと答えている。こうした結果からも、長年、中心市街地を訪れたり、居住している人には、以前に比べ街の印象が良くなっていると言える。

具体的には、近年、近隣都市において大型商業施設の開業や、住民の趣向の多様性などにより、目標指標である休日の歩行者通行量が減少するなどの傾向は見られているが、中心市街地である中央商店街のアーケードの一部リニューアル等により、商店街の印象が良くなったという意見や、阪神尼崎駅や同駅南側での住宅の整備、阪神なんば線の開通による乗降客人口の増加、また、中央商店街一体の環境浄化の取組の推進などにより、街の清潔感が増したなどの意見からも、街並みについては、以前より清潔感がある雰囲気へと変わりつつある。

6. 今後の取組

尼崎市中心市街地活性化基本計画の策定にあたり、街の活性化に関連する様々な主体が集まり、中心市街地活性化協議会が設立された。計画期間は満了となったが、今後もこの協議会を活かしながら、目指す活性化の方向性や具体的な手法の検討、協議を継続的に行っていききたい。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成	小売業年間販売額 (百万円)	24,910 (H18)	27,000 (H24)	24,746 (H24)	H25.6	C
「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成	サービス業等事業所数 (件)	1,112 (H18)	1,200 (H24)	1,134 (H24)	H25.6	<u>b</u>
地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成	休日の歩行者通行量 (人)	67,314 (H19)	72,000 (H24)	51,968 (H24)	H24.7	C

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

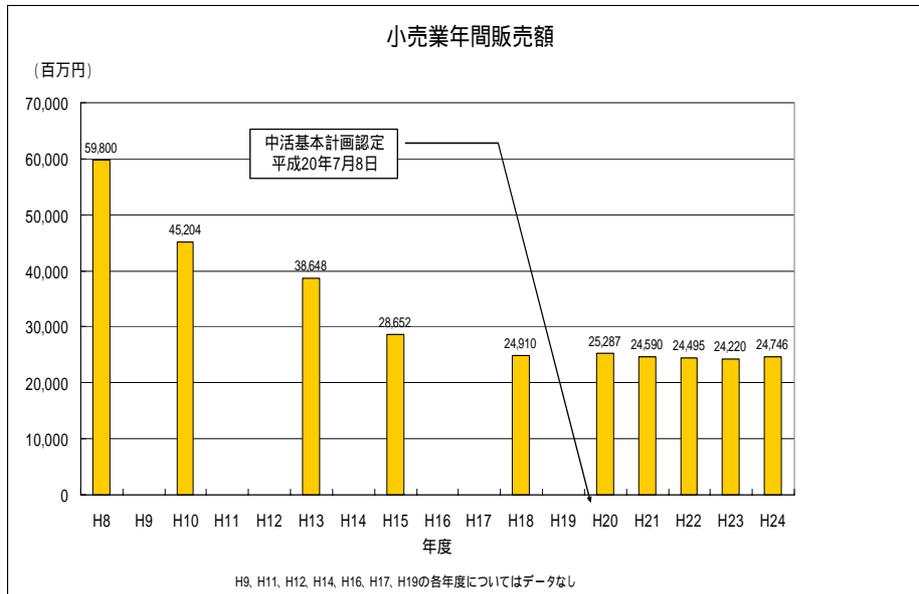
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成」

「小売業年間販売額」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 目標達成状況の総括



年	百万円
H18	24,910 (基準年値)
H19	
H20	25,287
H21	24,590
H22	24,495
H23	24,220
H24	24,746
H24	27,000 (目標値)

調査方法：中心市街地内市場・商店街ヒアリング調査

調査月：平成25年6月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地内の小売業店舗10店

【総括】

当初、目標としていた数値に到達することはできず、現状では、基準年の数値とほぼ同値となっているが、活性化基本計画策定時における平成24年度の推計値は上回っており、一定の成果はあったと考える。住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業し、消費者の流出が懸念される中ではあるが、ニセンデパートのリニューアルオープンや出屋敷リベルで新たな商業施設の開業、空き床対策への取組みなどが始まっており、今後、小売業年間販売額が回復、増加する要因はある。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・出屋敷リベル核店舗誘致対策運営会議事業（尼崎市）

支援措置名及び支援期間	単独事業
事業開始・完了時期	平成18年度～
事業概要	阪神出屋敷駅北地区市街地再開発事業による施設建築物「リベル」の核店舗であった「ダイエー」撤退の正式発表を受けて、早急に後継店舗誘致を実現するため、「ダイエー」床の所有企業をはじめ、本市や県民局などの関係機関をメンバーとした会議体を設置し、誘致に向けたコン

	セプトの検討や情報の提供などを行い、所有企業による主体的な誘致活動を支援するもの。
目標値・最新値	目標値:1,151 百万円増加 最新値:1,555 百万円増加
達成状況	核テナント誘致により、概ね目標額は達成できた。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地の商店街を含む市内全体の小売業販売額は減少しているが、リベル出屋敷については、平成 18 年 10 月にミドリ電化が、また、平成 20 年 4 月に関西スーパーが出店し、核テナントが入居したことにより、空き床が減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	計画当初より空き床は減少しており、核テナントとなる商業施設も開業し、以前より活気がある状況となっている。
出屋敷リベル核店舗誘致対策運営会議事業の今後について	引き続き、業種業態ゾーニング計画案及びテナントミックス計画案を作成し、テナント誘致に向け関係者と調整を進めていく。

・尼センデパートリニューアル事業(阪神不動産株、阪神電気鉄道株)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～
事業概要	本市中心市街地の東の玄関口に位置するターミナル機能を有した商業施設のリニューアル工事を行うことにより、新たな魅力の創出を図るもの。
目標値・最新値	目標値:107 百万円増加 最新値:391 百万円増加
達成状況	リニューアルは遅れたが、概ね目標額は達成できた。
達成した(出来なかった)理由	景気後退の影響を受け、リニューアルの仕方等を検討し直し、事業実施に遅れが生じたが、リニューアル後は、順調に売上げが伸びたため。
計画終了後の状況(事業効果)	景気後退の影響を受け、リニューアル事業の実施が遅れていたが、平成24年11月に一部リニューアルオープンし、一日の来客人数、販売額においても、リニューアル前と比較すると、増加傾向である。
尼センデパートリニューアル事業の今後について	本市中心市街地の東の玄関口に位置し、ターミナル機能を有した商業施設であるため、集客数、小売業販売額とも増加していくものと考えられる。

・商業支援事業（テナントミックス支援事業・商業ベンチャー支援事業（尼崎市））

支援措置名及び支援期間	単独事業
事業開始・完了時期	平成22年度～
事業概要	商業集積の魅力を高めるために、空き店舗を活用して開業意欲のある起業者に対し支援を行うことで、商店街内での開業を促し、魅力的な商業空間の形成を図るものであり、商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成に必要な事業である。
目標値・最新値	目標値:374 百万円増加 最新値:75 百万円増加
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した（出来なかった）理由	商業支援メニューを活用して、中心市街地内に開業する店舗は存在したものの、起業条件等の面からも当初予定していたほどの開業に至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	今後、出店の見込みがあり、引き続き、施策の PR に努め、開業を促していく。
商業経営支援事業の今後について	商業集積の魅力を高めるため、引き続き空き店舗の活用事業等により必要な支援を行っていく。

・ICカード活用商店街活性化事業（株ティー・エム・オー尼崎）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～平成24年度
事業概要	鉄道系 IC カード「ピタパ」等と連携し、顧客の困り込みを図ると共に、地域の購買力の発掘を推進することで、中心市街地の活性化を図るもの。
目標値・最新値	目標値:253 百万円増加 最新値:0 百万円
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した（出来なかった）理由	市内小売業販売額が減少している中で、費用対効果を考えた結果、事業の実施に至らなかったため
計画終了後の状況（事業効果）	事業を実施していない。
IC カード活用商店街活性化	商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成のため、また、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成に向け、

事業の今後について	必要な施策を展開していく。
-----------	---------------

・メイドインアマガサキ事業

(株ティー・エム・オー尼崎、中央・三和・出屋敷商業地区まちづくり協議会)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成15年度～
事業概要	尼崎ならではの商品の発掘・加工・アソートなどにより高付加価値化を図る商品開発に取り組むとともに、認証企業間の連携促進等の推進により地域経済の活性化を図るもの。
目標値・最新値	目標値:18 百万円増加 最新値: 7百万円
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	平成20年のリーマンショックを契機にした消費の減退を受け、メイドインアマガサキの売り上げも低迷したため。
計画終了後の状況(事業効果)	メイドインアマガサキの売り上げは契機の減退を受け低迷しているが、大学との協同研究等に取り組み、注目度も高く、先進的な取組みとして他都市から注目を集めるなど、中心市街地に止まらず、尼崎の知名度を高めるといった効果をあげた。
メイドインアマガサキ事業の今後について	メイドインアマガサキ事業の更なる情報発信を行っていく。

・阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業

(阪神尼崎駅南地区市街地再開発組合)

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 17年度～21年度
事業開始・完了時期	平成17年度～平成21年度
事業概要	都心地域の特性を活かした民間開発を促進することによって、密集した老朽木造家屋の解消、都市火災・安全性の向上及び都市地域としての都市機能の更新を図るための駅前市街地再開発事業。 ・地下1階、地上29階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅207戸(うち高齢者対応住宅26戸) ・メディカルモール等
目標値・最新値	目標値:213 百万円 最新値:186 百万円

達成状況	計画期間内には、目標値の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	景気低迷の影響を受け、マンションの売れ行きが鈍化し、また、施工期間が延長となったため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成22年11月に竣工し、現状ではマンション入居率は85%を超えており、目標とした値に近い事業効果があった。
阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業の今後について	現在は空き状況であるメディカルモールにも入居予定があり、まちなか居住を促進することにより、今後、更に中心市街地活性化に資するものとする。

・御園公園跡地活用事業(さきタワー・サンクタス尼崎駅前)
(オリックス不動産(株)大阪支店)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成18年度～平成20年度
事業概要	御園公園跡地有効活用事業提案競技による最優秀提案事業(住宅型有料老人ホーム及び店舗を併設したマンション)であり、まちなか居住を推進し、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成及び商業活性化の推進を図るもの。 ・地下1階、地上29階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅228戸
目標値・最新値	目標値:235百万円 最新値:235百万円
達成状況	当初の目標は達成できた。
達成した(出来なかった)理由	積極的な販売促進活動等を行ったため
計画終了後の状況(事業効果)	平成20年9月に竣工し、現状ではマンション入居率は100%であり、目標とした事業効果があった。
御園公園跡地活用事業の今後について	まちなか居住を促進することにより、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成及び活性化に資するものとする。

3.今後について

エリア内の商業事業者の売上は基準値と比較しても僅かながら減少している状況にあり、また、ほとんどの計測地点での通行量の減少からもわかるように、中心市街地への来街者が減少している。その主な要因としては、市内の別地区や近隣都市での大型商業施設の開業などが考えられ

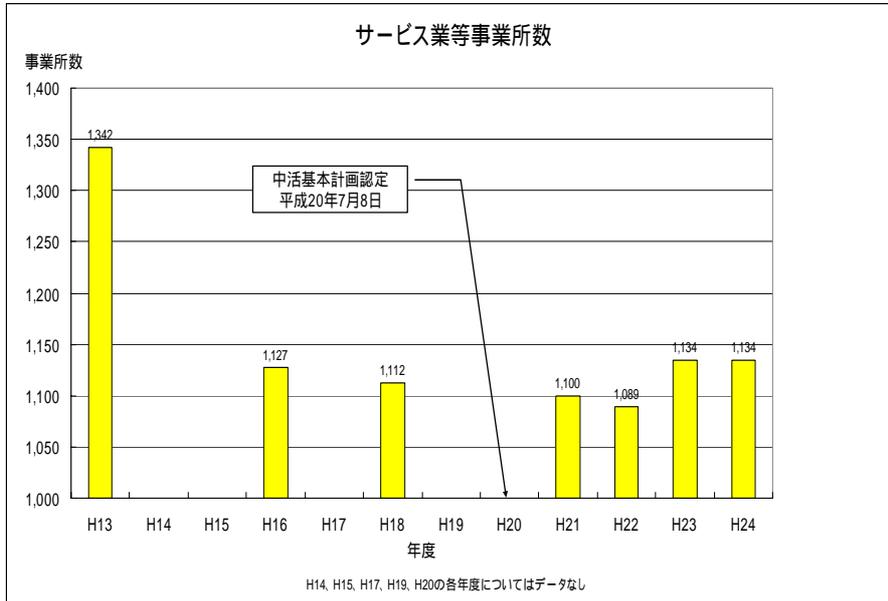
る。

一方、阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業による大型マンションの平成 22 年 11 月竣工(平成 23 年 1 月入居開始)により、当該地区の居住人口は増加しているほか、また、事業実施が遅れていた尼センデパートリニューアル事業についても 25 年 4 月にリニューアルオープンし、リニューアル前と比較して、来客数は増加していることから、今後、中心市街地の活性化に資することが期待できる。こうしたことから、引き続き、商業振興の視点を踏まえ、必要な支援を行うことにより、中心市街地の活性化に努めていく。

目標「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成

「サービス業等事業所数」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 目標達成状況の総括



年	件
H18	1,112 (基準年値)
H19	
H20	
H21	1,100
H22	1,089
H23	1,134
H24	1,134
H24	1,200 (目標値)

調査方法：中心市街地内市場・商店街ヒアリング調査

調査月：平成 25 年 6 月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地内市場・商店街 6 団体

【総括】

当初、目標としていた数値には到達できなかったが、目標値に対して 94.5% の達成率となり、概ね目標は達成できた。

しかしながら、実態としては、出店する店舗が全国チェーン店等に偏る傾向があり、またテナントミックスが図られているとは言い難い状況にある。こうしたことから、地域活動への協力が限定的となり、地域一体となった活動が十分でなく、連携を図りにくい面がある。

一方、今後、阪神尼崎駅尼センデパートのリニューアルや阪神出屋敷駅前リベルの活性化が、当地区の魅力向上の牽引役として、新たな魅力的な店舗の立地の要因となり得ると期待される。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・都心ビジネス機能強化支援事業（尼崎商工会議所、(株)ティー・エム・オー尼崎）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～
事業概要	商工会議所や(株)ティー・エム・オー尼崎が、NPO 法人等との連携のも

	と、不動産や融資等の企業経営に関する情報を一元的に管理発信する機能の整備、オフィス賃借料の支援や経営相談といった各種補助制度の利用に関する相談体制の構築及び各種事業者のニーズに対応した高度産業人材の紹介等、中心市街地への立地誘導の推進を図るための総合的な支援制度を構築するもの。
目標値・最新値	目標値:22件 最新値:0件
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	スキーム検討会議や各種補助制度の利用に関する相談をはじめ、支援体制は構築され、また個別では当地区の立地誘導を試みたケースはあったものの、不動産所有者が細かく分かれ、個人の意向が様々であることから、個人資産を一元管理する手法の構築には至らなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	具体的な実績なし。
都心ビジネス機能強化支援事業の今後について	「商店街に出店したい事業者」と「不動産会社」の間にたち、事業者に地元のマーケティング情報提供等アドバイスを実施できる体制を検討していく。

・経営革新アドバイザーセンター事業(尼崎商工会議所)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成18年度～
事業概要	既存の中小企業の経営改善及び新規分野への進出などの事業拡大を支援するため、相談事業、アドバイザー派遣等を実施するもの。
目標値・最新値	目標値:50件 最新値:0件
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	新規創業を検討している方や開業間もない方をグループ化する事業を実施したものの、創業率が低く、また自宅(当地区以外)で開業するケースが多いことから、具体的な実績に至らなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	・随時、企業の経営支援を実施。 ・創業支援ほか、各種企業経営関係セミナーを年間10回程度実施。 事業実績はあるものの、中心市街地における実績がなかった。
経営革新アドバイザーセンター事業の今	空き店舗情報の活用など、他の事業と連携を図りながら、引き続き、実施していく。

後について

・ 創業人材育成事業（創業塾）（尼崎商工会議所）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成16年度～
事業概要	創業を促進するため、新規創業・起業を考えている方を対象に、「創業塾」を開催し、事業を開始する場合の心構え、ビジネスプラン作成のポイント、資金調達等の指導を行うとともに、創業のための実践的な知識や能力を養成するためのセミナーを実施するもの。
目標値・最新値	目標値:30件 最新値:0件
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	当事業は予定通り実施したものの、創業率が低く、また自宅(当地区以外)で開業するケースが多いことから、具体的な実績に至らなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	創業を促進するための「創業塾」を年間6回程度開催。 事業実績はあるものの、中心市街地における実績がなかった。
創業人材育成事業(創業塾)の今後について	空き店舗情報の活用など、他の事業と連携を図りながら、引き続き、実施していく。

・ 新規開業医支援事業（尼崎商工会議所、(株)ティー・エム・オー尼崎）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～
事業概要	中心市街地内における新規開業予定者に対し、物件仲介・資金相談・開業計画といった支援を行うことで、高齢化の進展が著しい当該地域に医療集積が進むことにより、中心市街地住民への生活サービス向上を図るもの。
目標値・最新値	目標値:4件 最新値:0件
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	新規開業予定者の情報がなく、支援の実施に至らなかったため。
計画終了後の	計画期間満了後、新たに新規開業の情報がある。

状況（事業効果）	
新規開業医支援事業の今後について	当該計画は終了したものの、新規開業(予定)者に対し、必要なアドバイスを行うことで、中心市街地住民への生活サービス向上を図っていく。

3.今後について

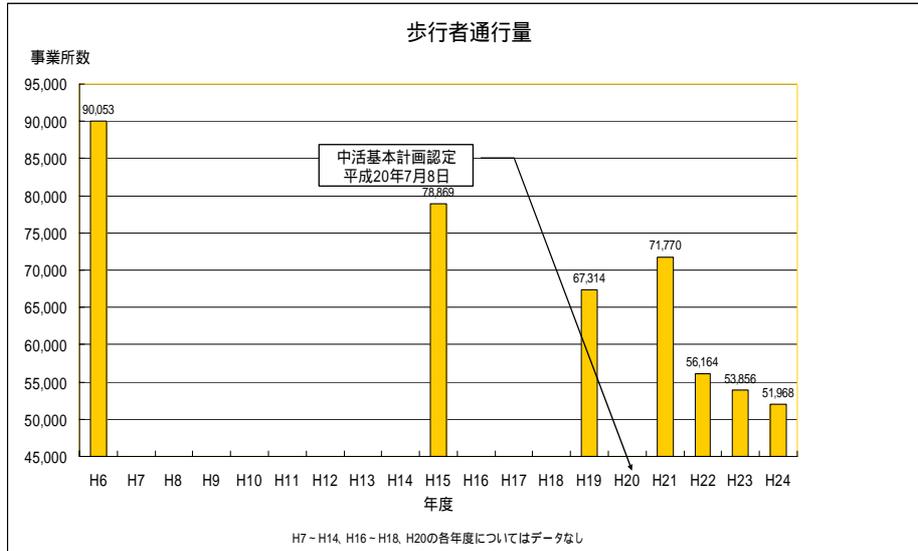
当該計画期間満了と同時期に阪神尼崎駅尼センデパートのリニューアルが行われたほか、阪神出屋敷駅前リベルの活性化が図られつつあるように、当地区の東西の玄関口が賑わいを取り戻す体制が整いつつある。

こうしたことから、サービス業等事業所の立地を促す仕組みにつくり、引き続き、積極的に取り組んでいく。

目標「地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成」

「休日の歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 目標達成状況の総括



年	人
H19	67,314 (基準年値)
H20	
H21	71,770
H22	56,164
H23	53,856
H24	51,968
H24	72,000 (目標値)

調査方法：歩行者通行量調査

調査月：平成24年7月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：歩行者及び自転車通行者、休日7地点

【総括】

当初、目標としていた数値に到達することはできず、現状では、基準年の値も下回る状況となっている。これは、住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業し、消費者の流出が影響したものと思われる。一方で、阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業による大型マンション建設での居住人口の増加や、尼センデパートのリニューアルオープン、出屋敷リベルで新たな商業施設の開業及び空き床対策への取組みが始まっており、今後、歩行者通行量が回復する要因はある。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・ボランティアガイド育成・運営事業（尼崎ボランティアガイドの会、尼崎市）

支援措置名及び支援期間	単独事業
事業開始・完了時期	平成17年度～
事業概要	寺町地域を訪れる市民や団体等に対して、郷土を愛する市民の立場で案内や説明を行うボランティアガイドを育成するとともに、その知識を活用して、ガイド活動を行うもの。
目標値・最新値	目標値：180人増 最新値：13,000人減
達成状況	目標値達成には至らなかった。

達成した(出来なかった)理由	事業は継続的に実施してきているが、住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業したことなどにより、事業と連動して、休日に中心市街地の商店街等に来街者を十分に誘引できなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	郷土を愛する市民の立場で案内や説明を行うボランティアガイドを育成するとともに、その知識を活用して、定期的(毎月第二土曜日)に事前申し込み不要の定時ガイドを実施した。
ボランティアガイド育成・運営事業の今後について	魅力のあるボランティアガイドを実施することにより、来街者の中心市街地の商店街等への誘引に努めていく。

・ 尼崎都市観光推進事業(尼崎商工会議所)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成19年度～
事業概要	尼崎市の地域資源である産業や都市基盤施設を活かした新たな観光メニューを開発し、地域固有の歴史的資源を活かした尼崎の都市観光を推進するもの。
目標値・最新値	目標値:600人増 最新値:9,000人減
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	取り組む事業を増強し、充実を図ったことで、参加者の増加が図られたものの、通行量の実績には表れなかった。事業実施による効果が、恒常的な通行量の増加にまで繋がっていないと思われる。
計画終了後の状況(事業効果)	「尼崎一家の旅」と題し、商店街ボランティアガイドを募り、講習会を実施のうえ、3度に亘り、ガイドツアーを開催したほか、「工場見学でお腹が空いたら、あんかけチャンポンを食べようツアー」や「尼崎ものづくり博覧会」などを開催し、本市の魅力をより積極的にアピールする都市観光事業を行ない、好評を博したものの、具体的に数値の実績には表れなかった。
尼崎都市観光推進事業の今後について	今後も、引き続き、ものづくりの街をベースとした産業観光や、地域資源を活用した都市観光を実施していくこととしており、交流人口の増加を図っていく。

・ 阪神西大阪線延伸事業に伴う尼崎駅等改良工事(神戸高速鉄道株)

支援措置名及び支援期間	幹線鉄道等活性化事業費補助(国) 阪神西大阪線幹線鉄道等活性化事業(兵庫県)
事業開始・完了	平成13年度～平成20年度

時期	
事業概要	阪神西大阪線の延伸(阪神西九条駅～近鉄難波駅間)に伴い、阪神電車と近鉄電車の相互直通運転(神戸三宮～奈良間)を行うため、西大阪線の終端駅となっている阪神尼崎駅の軌道変更やホームの新設、延長及び大物駅のホーム延長などを行い、乗り継ぎの円滑化を図り、本市中心市街地への来街を誘引する。
目標値・最新値	目標値:413人増 最新値:13,000人減
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	事業完了に伴い、終端駅である阪神尼崎駅の乗降客数は増加しているが、住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業したことなどにより、事業と連動して、休日に中心市街地の商店街等に来街者を十分に誘引できなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成20年度で計画通り完成し、平成21年3月20日に開通。併せて、尼センデパートのリニューアル等により、阪神尼崎駅前の通行量も増加傾向にある。
尼崎駅等改良工事の今後について	阪神尼崎駅の平均乗降客数は増加していることから、歴史的・文化的資源を活用した魅力づくりや情報発信を行うことにより、来街者数の増加に努めていく。

・中央商店街・寺町連携地域振興イベント事業

(尼崎中央一番街(振)、尼崎中央三丁目商店街(振)、尼崎中央四丁目商店街(振)、
尼崎中央五丁目商店街(振))

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	地域の歴史的資源である寺町との連携を図ることにより、来街者等に対して魅力を創出し、地域の活性化を推進するもの。
目標値・最新値	目標値:450人増 最新値:13,000人減
達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	事業は継続的に実施してきているが、住民の趣向の多様化や近隣都市において大型商業施設が開業したことなどにより、事業と連動して、休日に中心市街地の商店街等に来街者を十分に誘引できなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	隣接する寺町に所在する、5つの寺と2つの神社との連携により、寺町を来訪した人に「七福神朱印巡り」を案内するとともに、お奨めルート記載のパンフレットや朱印帳を手渡し、商店街と寺町を回遊する仕組みを仕掛けづくりを行い、また、天童稚児のお練行列などの各種イベントを

	開催した。
中央商店街・寺町連携地域振興イベント事業の今後について	歴史的・文化的資源を活用した魅力づくりや情報発信を行い、またこれに連動した商店街等のイベントを実施することにより、来街者数の増加に努めていく。

・地域ニーズに対応した商業集積地の魅力の向上

支援措置名及び支援期間	単独事業
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	商業集積の魅力を高めるために、リベルへの核テナントの出店、尼センデパートのリニューアル、空き店舗解消のための施策等を行い、小売業年間販売額を増加させることにより、それに付随して中心市街地の通行量の増加を図る。
目標値・最新値	目標値:2,635 人増 最新値:5,700 人増
達成状況	概ね目標は達成できた。
達成した(出来なかった)理由	空き店舗対策や鉄道系ICカードと連携したポイント付与などの取組は当初の目標達成には至らなかったが、尼センデパートのリニューアルやリベルへの核テナント誘致などが効果的に行えたため。
計画終了後の状況(事業効果)	商業支援事業施策のPRやリベルの空き床の解消に向け、引き続き取り組んでいく。
地域ニーズに対応した商業集積地の魅力向上の今後について	商業集積の魅力を高めるために、空き店舗の活用事業等により必要な支援を行っていく。

・MiAステーション子育てサロン運営事業

支援措置名及び支援期間	単独事業
事業開始・完了時期	平成19年度～
事業概要	子ども連れでも安心して買い物ができる環境を整えるために、空き店舗を活用しキッズスペースを設け、商業集積地としての魅力向上を図る。
目標値・最新値	目標値:100 人増 最新値:3,704 人減

達成状況	目標の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	専門スタッフによる託児サービスをはじめ、親子教室、母親のための教室・講演会など利用ニーズに合わせた多様な活動を展開したが、通行量の増加にはつながらなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	子ども連れでも安心して買い物ができる場(休憩スペースなど)の提供ができた。
MiAステーション子育てサロン運営事業の今後について	引き続き、子ども連れでも安心して買い物ができる場の提供をしていく。

・ 阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業

(阪神尼崎駅南地区市街地再開発組合)

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 17年度～21年度
事業開始・完了時期	平成17年度～平成21年度
事業概要	都心地域の特性を活かした民間開発を促進することによって、密集した老朽木造家屋の解消、都市火災・安全性の向上及び都市地域としての都市機能の更新を図るための駅前市街地再開発事業。 ・地下1階、地上29階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅207戸(うち高齢者対応住宅26戸) ・メディカルモール等
目標値・最新値	目標値:298人増 最新値:259人増
達成状況	計画期間内には、目標値の達成には至らなかった。
達成した(出来なかった)理由	景気低迷の影響を受け、マンションの売れ行きが鈍化し、また、施工期間が延長となったため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成22年11月に竣工し、現状ではマンション入居率は85%を超えており、目標とした値に近い事業効果があった。
阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業の今後について	現在は空き状況であるメディカルモールにも入居予定があり、まちなか居住を促進することにより、今後、更に中心市街地活性化に資するものとする。

P7の再掲

・御園公園跡地活用事業（さきタワー・サンクタス尼崎駅前）
（オリックス不動産㈱大阪支店）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成18年度～平成20年度
事業概要	御園公園跡地有効活用事業提案競技による最優秀提案事業（住宅型有料老人ホーム及び店舗を併設したマンション）であり、まちなか居住を推進し、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成及び商業活性化の推進を図るもの。 ・地下1階、地上29階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅228戸
目標値・最新値	目標値:328人増 最新値:328人増
達成状況	当初の目標は達成できた。
達成した（出来なかった）理由	積極的な販売促進活動等を行ったため
計画終了後の状況（事業効果）	平成20年9月に竣工し、現状ではマンション入居率は100%であり、目標とした事業効果があった。
御園公園跡地活用事業の今後について	まちなか居住を促進することにより、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成及び活性化に資するものとする。

P8の再掲

3. 今後について

基本計画掲載事業は、ほぼ計画通り実施されているが、阪神なんば線の開通や近隣の大型商業施設の開業による市外へのレジャーのための流出など様々な要因により、平成24年の歩行者通行量は、前年と比較して1,888人減の51,968人となっており、目標値の達成には至らなかった。

しかしながら、尼センデパートの全面リニューアルによる、尼セン東口の来街人口は増えつつあり、阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業による大型マンションの分譲などにより、居住世帯数も増加していることから、今後も地域資源を活用した事業を継続的に実施していくことにより、交流人口の増加、回遊性の向上及び滞留時間の延長などの相乗効果を図っていく。